

金沢市立金沢海みらい図書館

〒920-0341
金沢市寺中町イ1番地1



館長
藤木由里様

今回ご紹介させていただきますのは、石川県金沢市にごございます「世界で最も美しい公共図書館」の一つとして選ばれております「金沢市立金沢海みらい図書館」です。

北陸新幹線も開通し、交通の便もよくなったことで、多くの観光客も訪れるこの金沢ですが、今回、私は出張も重なったこともあり、車で訪問させていただきました。

金沢市の中心街から車を走らせて約30分、荒涼とした道なりに忽然と白い斬新な建物の「金沢市立金沢海みらい図書館」が目に入ってきました。

今回、インタビューを申し入れさせて頂いたところ、恐れ多くも図書館長がお応えいただけるとのことで緊張しつつ入館しました。そして、事務室で藤木由里館長にお迎えいただきました。その物腰が大変にやわらかく、とても優しそうな館長から、さっそくお話をお伺いさせていただきました。

金沢市は金沢城を中心とした武家文化が拓けた街であり、「海」「山」に囲まれ、とても自然に恵まれた土地でもあります。

また、新しいものを抵抗なく取り入れるとともに伝統も重んじ、伝統を次の世代へと繋げていく土地柄でもあるそうです。

金沢城周辺には近代的な建築物として「金沢21世紀美術館」はじめ多くの公共施設が集約していますが、中心街から少し離れたこの地域にも教育施設、交流施設がほしいとの地元住民の強い要望により、この図書館が建設されたそうです。



建築にあたってはプロポーザル形式でコンペを開催し、約40社以上の応募があったそうです。その中で「シーラカンズ K&H 株式会社」がこの図書館の設計にあたることとなり、従来の図書館の姿を打ち破った斬新なデザインだけではなく、機能面も大変充実した設計となっています。真っ白なケーキの箱のような外観に丸窓が特徴となっていますが、丸窓

は全部で6000個もあり、自然の光を、できるだけこの北陸の地域で活かしたいという思いから、それぞれの窓の大きさも違ってきます。光に包み込まれる森の中のような図書館空間、「本」と「人」が、本を「読む場所」「見る場所」との一体感を出すために1フロアで集約し、本に囲まれて、文字通り「光に包まれて幸せを感じる図書館」がコンセプトだそうです。



開館は平成23年5月21日です。

まだ歴史も浅いこの図書館ですが、入館者数は、なんと平日で1日平均約2000名から3000名と多く、また入館者の特徴としては年齢層も若く、現役世代の利用者が多いことだそうです。金沢市には4つの公共図書館がありますが、この図書館の場所は交通の便が少し悪いという条件にも関わらず、入館者が多く、また一人当たりの滞在時間も長いとのことで、居心地の良さが窺われます。

また建築物としてだけでなく図書館としての取り組みにも特徴があり、館長から二つのキーワードを挙げられました。それは「海・ものづくり」と「連携・協働」です。

キーワードの一つ目としての「海・ものづくり」ですが、この地域は海にも近く、藩政期よりお城に物資を運ぶ、北前船の海運等で活躍した銭屋五兵衛という豪商も輩出した土地柄であり、街中と違った独自の文化地域だそうです。現在は工業地帯でもあり、多くの方がご存じの「加賀野菜」の農業も盛んな地域でもあります。この海の恩恵を受けて、ものづくり産業が発展したことから、海・ものづくりに関連する蔵書の収集に力を入れておられ、これらの蔵書を集約した地域情報フロアを設けられています。また、海洋教育に関するもの、海の生物や日本海周辺国の韓国・中国・ロシアの書物を多く集められていらっしゃることも大きな特徴の一つです。



二つ目のキーワード「連携・協働」に関してですが、一つの柱として「大学協働」があります。金沢の大学と連携し、それぞれの大学の特徴・強みを活かして、学生の企画も積極的に取り入れられています。これは各大学のゼミやサークル活動の一環として大学と組む協働企画です。例えば、工業系大学・学生による「天文教室」、薬学系大学・学生による中国原書をもとにした「薬膳茶」企画、こども教育系大学・学生によるおはなしとあそびの会等、学生の皆さんが利用者と触れ、何かを見つけ出す、考える場ともなっています。

また、海に近い特徴を生かし、海上保安庁との連携によるイベントの開催や、金沢21世紀美術館とも連携し、美術館で所蔵している作品を展示するなど、街中でしか美術作品が見られないのではなく、中心街から離れているこの地域の方にも美術に親しんでもらおうというコンセプトのもとで連携し開催しているそうです。

館長からのお話を伺う前までは、この図書館の建築物としての魅力に大きな関心を持って訪問させていただきましたが、お話を伺うことで、この図書館の建築物としての美しさはもちろんのこと、単に美しいだけではなく、この地域の特徴を存分に活かし、多くの取り組みにより、地域住民だけではなく金沢市民や県外の観光客からも強い興味と関心を持ってもらえる図書館であることを強く感じました。



事務室での館長からのお話を終え、いよいよ図書館内の施設を見学させていただきました。はじめに1階のフロアから見学させていただきました。1階は「児童図書コーナー」となっており、壁側の一面がガラス張りとなっています。そのため、光が存分に入り、とても明るく開放的な空間となっていました。また、天井にはお花の模様の照明もあり、この照明がとても可愛らしく、この児童向けの空間によくマッチしていました。

「おはなしの一む」「授乳室」も完備されており、小さなお子様がいらっしゃるお母様にとっても利用しやすい環境となっています。閲覧席は48席。はじめて本に触れる児童のために少しでも興味を持ってもらえる工夫もされていました。また、この1階には総合カウンターも設置され、金沢の公共図書館では初の自動貸出機が3台備えられていました。



また、地域住民からの強い要望でもあった、交流の場として、この図書館の1階には講演会、発表会、またギャラリー、あるいはグループ活動等で活用できるよう、200席もある大きな交流ホールや集会室、グループ活動室、ギャラリー等、各目的に応じて活用できる充実した施設もありました。



中央の階段で2階に上がると、そこには広大な吹き抜けがあり、壁は複数の丸窓で覆われ、その丸窓から自然の光が差し込み、絶妙な明かりとなり、素晴らしい空間となっていました。本と向き合うための、贅沢な時間を作り出してくれるこのフロアは、一般図書コーナーとなっており、閲覧席は114席あります。またICタグ、自動化書庫も導入されています。閲覧席には手元の本に照明が当たるよう照明が設置されていますが、自然光とこの人工照明がお互いに邪魔することなく、フロアに上手く調和されていました。

また利用者には作業着やスーツ姿で熱心に調べものをされたりしている方も多く見受けられ、館長がおっしゃっていたように現役世代が仕事等での利用も多くされていることを感じました。



そして、3階へと上がっていくとこの図書館の2階フロアが一望でき、その美しさに思わず声が出てしまいました。フロアが一望できる場所には閲覧席があり、ここならば何時間でも1冊の本と真摯に向き合える、そのような贅沢な時間を過ごせると感じました。

また、この3階には館長のお話しにもございました「海・ものづくり」に関する資料があり、この地域の歴史、文化に触れることができます。

また大変に珍しい海図等もあり、とても興味深い資料が多数ありました。



今回、ご紹介させていただきました、この「金沢市立金沢海みらい図書館」は、以前から一度は行ってみたいと考えていた図書館でした。そして、今回、館長のお話を伺い、また図書館の見学させていただくことで、美しい建築物の見学で終わらせることなく、この地域の歴史、素晴らしい文化にも触れることができました。「新しいものを抵抗なく取り入れ、伝統も重んじる」この金沢の風土はこの図書館でも実感させていただきました。最新の機器、斬新なデザイン、しかしこの地域の昔からの特徴、伝統を伝えることへの取り組みは大変勉強となりました。